石屋工務店 かわら版

第129号

H27年10月14日 発行

石屋工務店

TEL 075 492-1483（シックニ イシヤサン）

京都市北区大宮薬師山東町 47－5　建設業／京都府知事(般-25)第 31625 号　インテリアコーディネーター登録店

大雨

故郷の町で大雨が降りました。町の観測史上最高の雨量が計測されました。

その日は道が川のようになり、地域によっては避難勧告も出ていました。

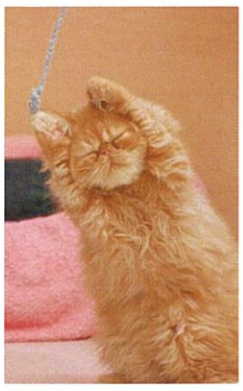
実家の周辺も出歩くことが出来ないほどになり、私の親も大事な荷物などをまとめて、指示があればいつでも避難ができるように準備していたそうです。

私が実家にいた時は川河付近の地域が稀に浸水することはありましたが、実家のある場所はそういったこととは無縁でした。

ここ最近、観測史上最大とか最大級などといった言葉のつく天候が度々あります。自分自身がそのような天災などを目にしたことは無いのですが、今回の実家のこともあり、もしもの時の準備はするようにしました。

高野　圭亮

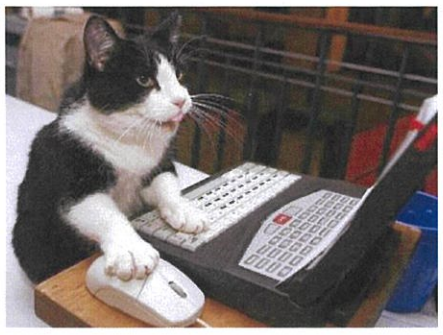
粋人 石屋の多趣味人生 その105



猫

私が動物を好きになったのは爺さんの家で飼われていた「コロ」が始まりだと思います。「コロ」は雑種の柴犬で三、四歳の頃の私は自分の家来か子分みたいに、お手、お座りと命令していました。「コロ」は小さい私の命令にも忠実に答えてくれていた事を覚えています。

それから小学二年の時に猫を飼いました。赤毛の「タマ」です。「タマ」は寒がりで甘えたがりの猫でした。いつも私の布団の中に入りたがり、抱っこして寝るのが当たり前でした。雌猫の「タマ」はお産もいっぱいしました。猫の妊娠期間は二ヶ月で、多い時には、年二回お産をします。田舎の事ですから当然放し飼いです。時期が来ますとしょっちゅう夜遊びをして、お腹が大きくなります。そしてお産の時には私を呼びに来るのです。出産までずっとお腹をさすってあげなければいけません。途中で止めるとねだってきます。その為「タマ」の出産には全て立ち会うこととなりました。楽しい思い出です。



そんな「タマ」もこの世にはいません。

そして現在、我が家には二匹の猫がいます。六歳になった「小鉄」と十一歳の「美依」さんです。家に帰るといつもお迎えしてくれます。　いつまで元気で一緒に居られるのかなと思う今日この頃です。　いつしかペットが気兼ねない同居人にとなり、家族となりました。可愛い娘と息子になりました。

最近、猫の画像を集めています。ネットで探すと面白い画像がいっぱいです。いろいろとコレクションして遊んでいます。写真はそんな画像です。

石屋　紀次

ハロウィン

今年もハロウィンの季節がやってきました。と言っても我が家では特にパーティーらしい事もしないのですが、子どもは仮装をしてお友達とお菓子交換をしたいらしく、簡単なお菓子の準備をします。ハロウィンと言っても私は由来をよく知らず、アメリカのお祭り?くらいに思っていました。調べてみると、発祥はヨーロッパ。古代ケルトと古代ローマのお祭りが融合したもので、そこにキリスト教が加わった事でできた祭事の様です。カトリックの『諸聖人の日(十一月一日)』の前夜、十月三十一日に行われ、日本でいうとお盆にあたる日で、その前夜祭としてうまれたのがハロウィン。秋の収穫を祝い、悪霊などを追い払う宗教的な意味合いもあるとの事です。ジャック・オー・ランタンと呼ばれるかぼちゃを顔に見立て、くり抜きロウソクを灯します。

「Trick or treat!（お菓子をくれなきゃイタズラしちゃうぞ!）」普段からイタズラされている私には効き目はありません。(笑)

岩松　美紀

引き締めの秋

通販やCMでおなじみ「ワンダーコア」をロフトで見つけ、即決購入しました。座椅子の代わりにもなり、簡単にエクササイズが出来るからとやってみました。少しの反動で楽に起き上がれて、八パターンの使い方で腹筋、上腕二頭筋、腹斜筋などが鍛えられます。十段階ぐらいまで強さの調整ができるので、慣れてくると少しずつハードルを上げています。

私はエクササイズや運動が好きなので飽きることもなく、本当にTVを観ながら座っているだけで出来るので、自然と腹筋をしている感じで毎日愛用しています。同封されていたチラシには、二週間でマイナス何センチ痩せました!という体験談のコメントがあり、半信半疑でありながら、私も二週間チャレンジしてみようと、現在のぽっちゃり体型を写真に残し、ビフォーアフターを見比べてみようと思っています。

中島　あゆ美

一眼レフと秋

今年の秋は少し早めで秋晴れが多いようです。末子が小学六年の時に一眼レフを購入し、一年間子どもたちのサッカーを撮影してきました。勿論遊びに出掛ける時も持って歩いて良さげに感じたところでパチリパチリとシャッターを押していました。しかし最近はカメラの重さに耐えられず、車移動時に乗せて、車から知れた距離の所で写すという横着さです。

先日、知人からシニアサッカーの試合の撮影を依頼され写してきました。ご本人が出られる三十分だけの撮影でしたが、久しぶりの動きある被写体で意気揚々とシャッターを押して二六五枚。その後の画像修正も大層時間がかかって、こちらの作業にもカメラの重みと同じくらい影響が出ているなぁと感じるこの頃です。でも楽しいんですよ。この秋はカメラも持ってウロウロと行こうと心に決めたきっかけとなりました。

石坂　千孝